

# 学校図書館経営の取組

## 1 学校図書館活用教育のねらい

### (1) 読書センターとして

- 児童の読書活動を支援し、読書の喜びや楽しさを味わわせることによって、望ましい読書習慣を身につけるとともに、豊かな心情を育てる。
- 本に親しむことによって、情報を伝えたり、自分の考えや思いを表したりするための表現力の基礎となる言語感覚を養うことができるようにする。

### (2) 学習センター、情報センターとして

- 学校図書館を活用して、必要な情報を収集・選択・活用することができる能力を身につけ、自ら課題を解決しようとする主体的な力を育てる。
- 図書館のさまざまな資料に触れ、図書館の使い方を理解することができる。

## 2 読書センターとしての取組

### (1) 朝の読書タイムの充実

朝活動の時間（8：20～8：35）を利用して、以下のようなさまざまな読書活動を行った。

- ・火曜日・・・毎月第1火曜日 教職員による読み聞かせ「ドキドキ読書」

（1学期：6年生が1年生へ読み聞かせ）

- ・水曜日・・・毎週

読み聞かせボランティア「がじゅまるの会」

- ・木曜日・・・毎週 全校児童一斉読書「みんなで読書」

さまざまな読書活動を毎週取り入れることにより、全校児童が本に触れる時間の確保ができたことはよかった。また、朝、落ち着いて一日のスタートをきることができた。

地域の方々、教職員などさまざまな人に本を読んでもらうことで、より読書の楽しさを感じることができている。



### (2) ストーリーテリング

学期に1回、ストーリーテリングの活動を行った。地域ボランティア「おはなし ちょんぼし」の方々に来ていただき、お話をしていただいた。毎年継続して行っており、児童は回数を重ねる度に聞く力が付き、楽しむことができている。お話を想像して楽しむことができるよい機会であり、今後も続けていきたい。

(3) 毎月24日「ふほちゃんデー」

毎月24日を「ふほちゃん（ドリーム図書館キャラクター）デー」とし、給食の時間を利用して司書教諭が本の紹介や読み聞かせを行った。

4月・・・**冒険** 「スプーンおばさん」「マジックツリーハウス」

5月・・・**先生** 「あまがえる先生」「えんそくバス」「菜の子先生」「ノエル先生としあわせのクーポン」「ほっぺん先生」

6月・・・**サッカーワールドカップ開幕** 「読売こども新聞」「サッカークイズ①②」  
「ワールドカップ 伝説をうんだヒーローたち」「フットボールアカデミー」  
「香川」「長友」「メッシ」「ボールの魔術師 ウイリー」

9月・・・**きたやまようこさんの本** 紹介、読み聞かせ

10月・・・**家** 「100かいだてのいえ」「こそあどシリーズ」  
「鳥の巣ものがたり」「世界あちこちゆかいな家めぐり」

11月・・・**名作**  
「そんごくう」「トム・ソーヤ」「ドリトル先生」「ながくつしたのピッピー」「赤毛のアン」

1月・・・2月13日の**弁当の日**前 「弁当の日がやってきた」  
(読み聞かせ)

2月・・・卒業間近の6年生一人一人から**「とっておきの本」**を紹介。



(4) わくわく情報委員会の活動

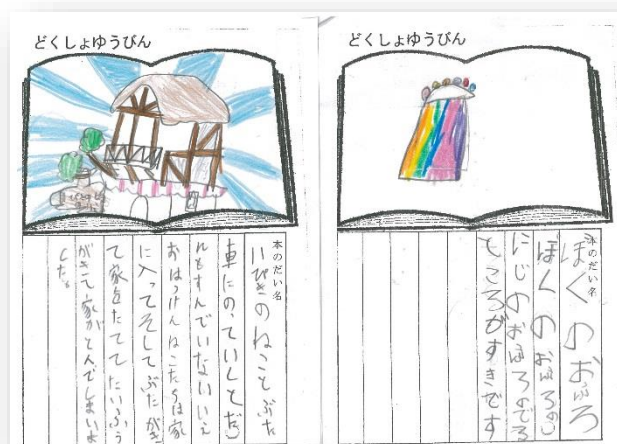
わくわく情報委員会の児童が、学期に1回程度「ドリームフェスティバル」と称し、図書館に関するさまざまなイベントを以下のように考え、行った。

**1学期**

・読書ゆうびん

自分の好きな本についての感想を葉書に書いて友達に紹介するという取組を行った。

学年内でペアを作って葉書のやりとりをした後、さまざまな友達に自由に書いてもよいことにした。自分の好きな本を友達に紹介したいという思いから意欲的に取り組む児童が多くいた。



## 2・3学期

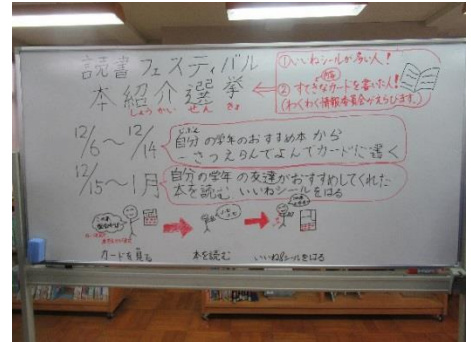
### ・本紹介選挙

各学年のおすすめ本（教職員選定本）を使って、以下のようなイベントを考えた。

【本部門】各学年のおすすめ本を読み、読んだ本について「しょうかいカード」に書き、学級の友達にその本の楽しさを紹介する。友達からおすすめしてもらった本を読み、「しょうかいカード」に「いいねシール」をはる。学級内で「いいねシール」が多い本を選び、学級で一番人気の本とし、全校児童に紹介した。

### 【カード部門】

「しょうかいカード」にその本の楽しさがうまく表現されているカードを学級で1点選び、全校児童に紹介した。



### 各学級で選ばれた本

6年生

「イクバルの闘い  
-世界- 勇気ある少年-」

(フランチェスコ・ダダモ  
/鈴木出版)

5年生

「こちら『ランドリー新聞』  
編集部」

(アンドリュー・クレメンツ  
/講談社)

4年生

「じごくのそうべえ」

(たじま ゆきひこ/童心社)

4年生

「なんでもただ会社」

(ニコラ・ド・イルジング  
/日本標準)

3年生

「町のけんきゅう」

(岡本信也・岡本靖子  
/福音館書店)

2年生

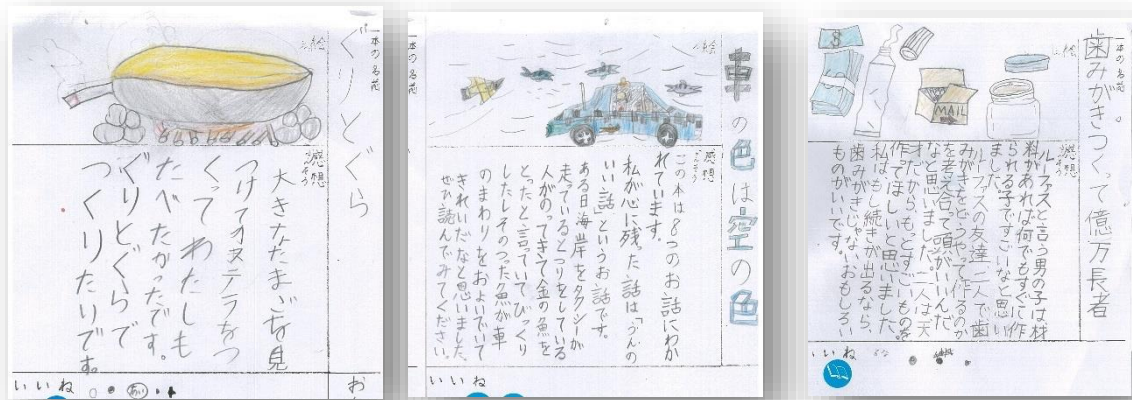
「だんごむし そらをとぶ」

(松岡達英/小学館)

1年生

「おいしいのぼうけん」

(ふるた たるひ・たばた せいいち  
/童心社)



選ばれた「しょうかいカード」

通年

「なかよし読書」

低学年と高学年のペアを作り，高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせを行った。



わくわく情報委員会が企画したすべてのイベントに全校児童は意欲的に取り組んだ。特に3学期に行った「本選挙」は、「おすすめ本を読んで紹介しよう。」というねらいで取り組んだ。読んだ本の感想を友達に「しょうかいカード」で伝え、学級で一番人気の本を選ぶという楽しみもあり、意欲的に本に手をのぼし読んでいた。また、学級内でうまく書けている「しょうかいカード」がわくわく情報委員によって選ばれることもあり、しっかりと読み込み、文や絵で表現することができた。選んだ本や「しょうかいカード」は、全校児童に説得力のあるコメントで伝えることができた。このようにドリームフェスティバルは、児童が主体的に考えたイベントであったので、児童の実態に合う楽しい読書活動となった。

(5) 作家による絵本ライブ

作家 きたやまようこさんの絵本ライブに参加した。きたやまさんのお話に引き込まれ、あたたかくゆったりとした時間を過ごすことができた。「読んでみたい。」という気持ちがわいてきたようである。学校図書館にもきたやまさんの図書を展示し、多くの児童が手に取れるようにした。



## (6) ファミリー読書

「毎月30日はノーテレビデー」の取組に合わせて、毎月30日からの1週間を「ファミリー読書」の期間としている。7つのコースから選択をし、家庭で読書を行う。下記の児童や保護者の感想からも分かるように、家族で本を通してよい時間を過ごすことができている。

- ①コース 家族が子供に本を読み聞かせる。
- ②コース 子供が家族に本を読み聞かせる。
- ③コース 家族で1冊の本を交互に読み合う。
- ④コース 家族の誰かが新聞を音読して、記事について話し合う。
- ⑤コース 読んだ本について家族で感想などを話し合う。
- ⑥コース 家族がそれぞれの本を読む。
- ⑦コース 家族の誰かが、おはなし（昔話など）をする。

いもうとにえほんをよんだら、よろこんでくれてよかったとおもいました。(1年児童)

私が大好きだった絵本を息子が借りて帰って懐かしい気持ちがよみがえりました。感動する話に最後は涙ながらに読んでみると、そっとティッシュを差し出してくれた息子の優しさにまた涙してしまいました。(1年保護者)

## (7) 親子読書

授業公開日に合わせて、親子読書の時間を設定した。この親子読書とは、校内で20分間、親が子へ読み聞かせをする活動である。読み聞かせを通して、親子で本の楽しさを知ってほしいこと、親子のふれあいの大切さを感じ取ってほしいことから昨年度より行っている。今年度も心温まるすてきな時間を過ごせていた。父親の参加も多くなってきている。



### (8) 読売ワークシート通信

全校児童が週1回、読売新聞より配信されている「読売ワークシート通信」に取り組んでいる。1年生は3学期より始めている。1・2年生は、おうちの人と一緒にやることにした。

1年生から新聞記事にふれることで、新聞に興味をもつことができると考えている。



## 3 学習センター、情報センターとしての取組

(1) 学校図書館活用学習年間指導計画（別紙）に基づき、各教科等において学校図書館を活用した授業を行い、各教科等の目標達成に努めた。（詳細は各学年の取組より）

### (2) 学校図書館利用指導

年度初めには図書館オリエンテーションを行い、各学年に応じた指導を行った。1年生には、本の貸し出しの流れを写真を使って説明し、その後も掲示してわかりやすくした。

(3) 情報リテラシー指導体系表（別紙）に基づき、各学年に応じて指導を行った。身に付けたことを各教科等で使い、スムーズに調べたり、まとめたりすることができるようになった。

## 5年生 年鑑の使い方を知ろう 調べ方がわかったよ。素早く簡単に調べられるなあ。



## 4 資料の管理

### (1) 前年度の成果物の整理

各学年の授業で取り組んだ児童の前年度の成果物を可能な範囲でとっておき、見本として提示した。児童はイメージがもちやすく、「私たちもつくりたい。」という気持ちになり、意欲的に取り組むことができた。

資料は図書室奥の倉庫にどの職員でもわかるように整理しておいた。



### (2) ブックリスト、指導案等の整理

使用したブックリストや指導案をパソコン内にデータとして残しておいた。また、紙媒体にし、すぐに見ることができるようにファイルにして図書館へもおくこととした。

授業前の指導案審議や相談を図書館で行うことが多く、ブックリスト、教科書等が本棚に並んでいるとすぐに見ることができ、作業や話し合いもスムーズであった。



### (3) 思考ツールの活用

いつでも、だれでも、どの教科でも使えるように思考ツールを印刷し、すぐに使えるよう学校図書館に整備して置くようにした。児童が自分で選んで使えるようになってほしいと思う。

## 5 成果と課題

### 成果

- ① わくわく情報委員会の児童が積極的に学校図書館に関する活動を行い、児童の読書意欲へと結びついた。
- ② さまざまな教科等において、学校図書館を活用した授業を多く行った。担任、司書教諭、学校司書の三者が連携して授業を行うことができ、きめ細やかな支援を行うことができ、児童の学習意欲が高まった。
- ③ 授業において必要な図書資料を町内の図書館と連絡をとり、準備することができた。
- ④ 学校司書の勤務時間が長くなり、放課後を利用して相談や準備ができるようになった。

### 課題

- ① 「図書館アンケート」の結果より、読むことが苦手である児童、読書があまり好きではない児童を把握することができた。これらの児童に対しての具体的な手立てや声かけが必要である。
- ② 前年度のものを見直し、今年度の実践や授業で使った本のブックリストなどを整理し、学校図書館に常時だれでも使えるよう整備する必要がある。
- ③ 使いやすい図書館を維持するため、計画的な本の購入や廃棄を継続して行う必要がある。
- ④ 家庭での読書時間については課題が大きい。本バッグの持ち帰り等を行い、より一層家庭と連携しながら、生涯にわたる読書生活へと結びつけていきたい。
- ⑤ 引き続き、年間指導計画、指導体系表に基づいた学校図書館活用学習を計画的に行う。今年度の取組、成果を次年度へつなげるよう記録に残しておく。

- ⑥ 二人の司書教諭がうまく連携を保ち、分担して各学年の授業に入れるように計画していく必要がある。



仁多中生が職場体験：掲示物作り

4年：国語  
リテラチャー  
サークル

